

1.2. カラマツ幼令林における牧草導入

1. 試験担当者

経営部営農林牧野研究室長 井上 楠一郎 ほか

2. 試験目的

未だ樹冠の疎開の大きい幼令造林地に人工草地を造成し、牧草類の長期多収を図るべく植栽様式を変形し、刈取作業の難易および林木の生長におよぼす影響を知ろうとする。

3. 昭和44年度の経過とえられた結果

人工草地については、利用4年目の収量を6月、8月、10月の3回、自然草地については8月に1回測定し、また被度と草丈の測定も行なった。牧草の収量は方形区が1haあたり17tであったが、他の群状や列状区では2.1~2.7tを示した。カラマツの樹高は引続き自然草地が高く、昨年度は30cmの差がみられたが、自然草地においてはノネズミによる被害が15%におよんだが、人工草地では1%に達しなかった。

4. 昭和45年度の試験計画

本年は最終年にあたるので、草地施肥量を減らして、今後3~5年間隔の定期的な林木調査に備える。本年も牧草類は3回にわたって収量を測定し、また牧草収穫の最終年のカラマツ生長状況を測定する。